

# かがやき

第15号 2008年4月発行

## ◆療育の理念◆ 人間愛

### 基本方針

- 一、私たちは、障害を持った方の人権と意思を尊重し、誠意を持って、命の輝きを大切に療育に励みます
- 一、私たちは、ご家族や関係機関と力を合わせて、ニーズに即した地域療育充実に努めます
- 一、私たちは、互いに信頼し、感謝の心で療育に取り組み、日々研鑽して療育の質の向上を目指します



社会福祉法人 二之沢愛育会 群馬整肢療護園  
〒370-3531 群馬県高崎市足門町146-1 電話 .027 (373) 2277 FAX.027 (373) 2278  
E-mail sw@gunmaseishi.com HP アドレス: <http://www.gunmaseishi.com>

## 20年度に向けて — マンパワーの確保を

園長 清水 信三

19年度は障害者自立支援法と医療費の改定という大きな問題が二つありました。これらも職員の皆さんのおかげで何とかクリアできたと考えています。利用者の皆さんの数も通園事業を中心に短期入所、日中一時支援事業、高崎の総合福祉センターなども確実に増えています。しかし、今後の発展を考えていくと大きな問題がいくつもあります。一つはマンパワーの問題です。今、そよ風病棟の準夜、深夜の看護師の勤務は2人夜勤で大変な状態です。看護師の数を増やし、夜間の勤務負担を軽くして入所の依頼にも答えていき、入院基本料を10:1にあげ、超重症児加算もと考えていかなければなりません。看護師の確保と定着の問題そして医師不足の問題を解決することが一番求められています。

医師不足の解決もこれほど根の深い問題はありません。100床当たりの医師の数の国際比較をするとアメリカの1/5、ドイツの1/3、看護師の数はアメリカの1/5、ドイツの1/2で毎年格差は広がってきています。これでは医療の基本である「病院」が「崩壊」し、日本の「医療」が「崩壊」していくのも不思議ではありません。

幸い当園にはいま使われなくなった看護職員宿舎があります。そこに職員の託児所、保育所を立ち上げて育児をしながら頑張っている職員を応援できればと考えています。また現在の本館、第一病棟、外来検査、そよ風病棟、ひまわり病棟など3-4階建てで建て替えることも予定していかなければならないようです。4・5年で直ぐ建ててしまいますので、いまから議論も始めなければなりません。現在の利用者の方々の期待に添えるように職員の気持ちを一つにして、また新たなマンパワーを加えられる様に努力していきたいと思えます。



食堂に掲示:森田伝一郎先生作

## 県功労者を受賞して

乳児園施設長 関口 洋子

このたび、県功労者の一人に選ばれ、平成19年10月29日、県庁において授賞式に出席し県知事さんより、表彰状と記念品を頂いてまいりました。永年にわたり福祉の職場に勤務した結果と職場においての多くの方々の援助や助言によるものと深く感謝申し上げます。

愛育乳児園には、保育士として昭和48年より勤務、その頃の乳児園は木造平屋建てのかわいい(小さい)赤ちゃんの家で、すきま風も通り過ぎ決して良い環境ではありませんでした。お世話をする赤ちゃん達は健康で元気な子どもが多く、家庭の事情で養育できない生後間もなくから2歳位の期間を家庭に代わって養育する場で、家庭状況に引き取り体制が整い児童相談所が決定することで、8割位は家庭復帰をしていました。現在は社会情勢や家庭環境も変化し、家庭における引き取り体制が整いにくい要因が複雑化してきていることや、病虚弱児や障害がある赤ちゃんを預かる場合も多くなってきて家庭に帰れる子が減り、里親委託や児童養護施設等、他施設に変更になる事も多くなっています。日々、何事も無く元気に過ごせることが何よりですが、赤ちゃんは具合が悪くなることも多く、そんな時療護園の外に予約を入れ受診します。離れた病院に行くには時間もかかりますが予約時間ギリギリに行けるのが助かります。機能回復訓練にも必要に応じて通院しています。乳児園の子ども達は家庭に比べ外部との接触が少ないせいもあり、通院の時、他の方々に人見知りしたり場所が違うだけで大泣きをする子もいます経験の場にもなります。

これまでに700人近い赤ちゃん達と出会いましたが、成長してからの様子は分からないので幸を願うのみです。これからも子どもの生命を守ること、健やかな成長を手助けする役割の重要性を思い赤ちゃんとの関わりを持っていきたいと思えます。





## 関東甲信越静肢体不自由児施設連合会(関ブロ)の会議開催について

事務長 櫻井 幸雄

標記肢体不自由児施設連合会(代表幹事:静岡医療福祉センター児童部森山明夫施設長)主催の平成19年度施設長・事務長会議及び民営部会が次のとおり開催されました。(当園・清水園長が幹事として同会議の設営を担当。)

日時・平成19年10月11日(木)、場所・高崎市 高崎ビューホテル3階「あかぎの間」

〈関東甲信越静肢体不自由児施設:事務長・施設長会議〉…午後1時30分～5時(14施設27名参加)

開会にあたり、森山代表幹事からご挨拶後、議事として、①関ブロ肢体不自由児施設療育研究部会の報告、②全国肢体不自由児施設運営協議会から厚生労働省への取り組みの概要説明及び会計報告の承認、役員の改選について審議されました。又、各施設からの提案議題の協議は、担当施設長(当園の清水園長)が議長となって、各施設から提出された9件の提案議題(児童の外泊対策・発達障害児の受入・医師の確保について等)について、回答資料を基に参加施設間で活発な意見交換と協議が行われました。どれも自立支援法の中で肢体不自由児施設の運営問題、医師や看護師等スタッフの問題等で、日常の施設運営の上で切実な課題について情報交換・お互いの交流がなされ、実り多い会議となりました。

〈2日目 10月12日(金) 施設見学〉

同会議出席者に、当園及び高崎市総合福祉センターの両施設を見学していただきました。当園の関係資料として、ビデオ「虹の立つ丘」(群馬整肢療護園・昭和28年記録)を各施設に贈呈しました。なお、会議開催準備・施設見学等でご協力いただいた関係職員の皆様に感謝申し上げます。この会議の議事録と関係資料は、図書室に備えてありますので、ご参照ください。



関ブロの様子

## 18回重症心身障害療育学会学術集会に参加して

リハビリテーション課課長 角田 淳

平成19年10月25日・26日に名古屋で開催され、私自身は、摂食関係セッションの座長をさせていただきました。当園でも取り組んでいるソフト食・お茶ゼリー・増粘(トロミ)剤の導入や、好き嫌いを克服するための多職種による取り組みなど毎日の療育に関わる研究が主でした。学術集会に参加し、①療育の場での日常的な工夫をまとめよう、②職種を越えて療育上の問題に取り組もう、③客観的なデータを残しておこう、と再確認しました。また、療育に対して意識的に取り組むため、他施設の様々な実践を知ることも大切であると思いました。ありがとうございました。

リハビリテーション課 勝野 恵

初日は、青い鳥学園を見学しました。30床ある肢体不自由児は皆虐待児で、今後も増加するそうです。名古屋は製造業が多く、地域の関係が希薄になることが原因ではないかということで、地域の文化の違いで特色が出るのが分かり、勉強になりました。2日目は、24時間姿勢ケアの内容で発表しました。最終日はOTが靴や呼吸の評価をしたり、PTがソフト食導入に力を入れる内容があり、専門職の拡がりに驚きました。この学会で、障害を持つ方々がより快適な生活を送るにはどのような支援ができるかと改めて考える機会を得ることができました。参加させて頂き、ありがとうございました。

## 第52回全国肢体不自由児療育研究大会に参加して

リハビリテーション課 川田 高明

平成19年10月25日～26日、米子市で開催され、昨年に続き第2報として移動能力を中心に「持久走・坂道・スキーに挑戦」を発表させていただきました。内容は、現在小3の先天性多発性関節拘縮症児が普通学級で体育、運動会、持久走(歩行器と短下肢装具)に参加、近位見守りですが長下肢装具で坂道の歩行、スキーを滑る様子等を報告させて頂きました。重度の障害を乗り越え、母親手作り自助具、装具を使って、普通学級でクラスの仲間と学校側の配慮と本人・ご家族の努力で同じ内容で授業を受け毎日元気に通学しています。私は当園に勤務して40年、全国療研では、主演者発表が6回、座長1回、共同研究5題になりました。仕事がマンネリ化しないよう、常に何かテーマを持って日々取り組んできました。全国療研は施設の専門職が一堂に会して先進的な取り組み、意見交換できる唯一の研究大会です。最近、当園も各課、各職種から研究発表する職員が増え大変良い事だと思います。これからも積極的な発表を期待しています。

看護師 金子 照好

今回のテーマは「肢体不自由児施設の専門性を改めてアピールしよう」でした。全国各施設から、各専門のエキスパートとして専門性を発揮しながら協力し合い、療育の質の向上を目指し日々の研究の成果を発表していました。それぞれの発表の中に新たなヒントを得られたと思います。今大会では「増粘剤の使用により胃食道逆流症の軽快を認めた重症心身障害児の1例」の共同研究者として参加しました。食生活・食行動への取り組みにおいて、増粘剤を用いた食形態の工夫によるQOLの向上につながった経験を報告してきました。各施設、専門性を発揮した発表で当園でも参考にしていきたいと思いました。